# 令和５年度 研究推進計画

学 校 名　東広島市立河内小学校
校　長　　金　田　　敏　治
学 校 名　東広島市立河内中学校
校　長　　三　谷　　晶　子

## １　研究主題，研究内容・方法等について

### ①研究主題

**自分の考えを進んで表現する児童生徒の育成**
**～意欲をかき立てる問いの設定と効果的な話し合い活動を通して～**

### ②主題設定の理由

今年度本小中学校では，研究主題を「自分の考えを進んで表現する児童生徒の育成をめざす授業のあり方～意欲をかき立てる問いの設定と効果的な話し合い活動を通して～」と設定した。主題設定理由は以下の通りである。

＜昨年度の研究の成果と課題＞

【河内小】

本校では，昨年度は「主体的に課題を発見し，解決に取り組む算数科授業の創造～単元を貫く「オリエンテーリング型授業の実践を通して～」の研究主題を設定した。研究主題の実現に向けて，単元のゴールを意識した単元学習に取り組んだり，オリエンテーリング型授業（児童が主体的・対話的に深く学ぶ授業）の実現に向けて学習課題を十分に把握できる導入に取組んだり，児童に選択肢を与えて選ばせて説明させたりする授業改善を行った。

昨年度の算数アンケート結果を分析すると，「算数の勉強がよくわかります」「自分の考えを伝えています」と答える児童の割合は向上し，授業改善には一定の成果が見られた。しかし，児童の主体性をみる「進んで算数の勉強に取り組みます」と答える児童の割合は，各授業研究後は向上したものの最終的には低下した。加えて「自分の考えを伝えるのが好きです」と答える児童の割合は当初より向上したものの 68.3%であり，自分の考えを表現することに苦手意識を持っている児童が多く，児童の意欲に課題があることが分かる。標準学力調査では，６学年中５学年で全国平均を下回っており，特に思考力・判断力・表現力をみる問題に大きな課題が見られた。

【河内中】

本校では，昨年度は「資質・能力の三つ柱をバランスよく育成するための授業の在り方～単元を貫く問いに向けた言語活動を通して～」の研究主題を設定した。研究主題の実現に向けて，ICT を効果的な場面で活用するとともに「単元を貫く問い」に向けた言語活動をより充実させた。その中で，各教科において，教師が，生徒が本気で考え，議論する価値のある質の高い問いを設定し，その問いの解決に向けた言語活動に取り組むといった授業改善を行った。

昨年度の研究テーマに基づく授業研究を通して，単元を貫く問いを各教科で設定することにより，教師自身が単元のゴールを意識し，達成するための授業内容や手立てを明確にすることができた。その中で，言語活動に取り組むことで自分の意見を他者に伝える機会が増え，友達の発表から学び，振り返りながら生徒自身で学びを深めることができた。また，広島県児童生徒学習意識調査等の結果より，「授業で友達と話し合い，考えを深め広げている」という割合が 92%となり，言語活動によって生徒も多様な意見に触れながら考えを深め，授業に取り組めているという成果も見られた。しかし，学校評価アンケートでは，「自分の考えを分かりやすく説明しようとしている」という割合が 65%と低く，今後は，生徒自らが分かりやすく表現したいと思えるような学習課題や単元を貫く問いなどを考えていく必要がある。

＜本小中学校・地域の実態＞

本小中学校はともに各学級１クラスずつの小規模校である。一人一人の学びに対してきめ細やかな指導が可能であり，自己を表現する機会を多く仕組むことができる。また，クラス替えがなく仲間と継続的に友好を深めることができる反面，多様な児童生徒とのかかわりの経験が少ないのが現状である。地域の方々は，本小中学校の教育活動に協力的で，地域人材を活用した様々な取組を行っている。小学校３年生から中学校２年生まで総合的な学習の時間の中で「地域創生プロジェクト」と題し，地域を学び貢献するためにどのようなことができるか，教材を開発して取組んでいる。

また，同じ校舎で学んでいる強みを生かして，本小中学校での小中連携を行ったり，同中学校区の入野小学校との遠隔授業で小小の連携にも取り組んだりしているが，より一層児童の学びに効果的な連携方法について検討していく必要がある。

＜今日的課題＞

変化の激しい社会をたくましく生きていく児童生徒が，学んだことを使って自分らしく表現することで自己実現につながる。昨年度より，広島県の公立高等学校入試では「自己表現」が導入された。進んで自分を表現しようとする意欲や自信をもつこと，レポート・スピーチ・ＩＣＴの活用等，自分に合った形で表現する技術を伸ばすことが必要である。

以上の課題・実態から，児童生徒の表現力を高める必要があると考えた。そのための授業の手立てとして，①児童生徒の意欲をかき立てる問いの設定，②課題の解決に向けた効果的な話し合い活動の設定に取組む。①では，各教科の見方・考え方に即して児童生徒が興味を持って意欲的に学習に取組める問いを設定することで，児童生徒は主体的に学ぶことができ，自分の意見をもち，クラスで話し合いたくなると考えた。そして②として，より効果的な話し合い活動を仕組むことで，自分の意見を相手に分かりやすく伝える。伝える。相手の意見との共通点・相違点を考え，自分の考えを深める。以上の取組みから，

ア　自信をもって自分の意見を伝えることができる児童生徒

イ　多様な表現方法を身に付けた児童生徒

ウ　関わり合いを通して自分の意見を深めることができる児童生徒

を育て，表現力を高めていく。

## ③研究仮説

**児童の興味をかき立てる問いを設定し，効果的に話し合い活動を仕組むことで，児童生徒は自分の考えをもち，進んで表現できるであろう。**

## ④研究内容

（１）表現力を高める授業改善の推進

・各教科，発達段階に応じた付けさせたい表現力の明確化

・「単元を貫く問い」を解決するための授業実践　　・効果的な話し合い活動の設定

（２）授業研究の実施（小：主に算数，中：全教科）

・「単元構想シート」を活用した授業構想　　・研究主題に即した指導案様式での作成

・小中学校教員の参観，研究協議

（３）小小連携，小中連携の更なる推進

・遠隔授業で自分の考えを表現する場面の設定　　・小中での児童生徒が表現し合う場面の設定

（４）主体的に考え，表現できる場や過程の設定

・一人歌い（小），ＴＥＤ（中）等の取組の充実

### ⑤検証の方法及び指標

・表現力に関する児童生徒・教員アンケート　肯定的評価 80％以上
・単元末テスト（小：算），定期テストにおける表現力を問う問題　平均点点以上
・大勢の前で自己を表現する場面（小：一人歌いなど，中：ＴＥＤなど）　全児童生徒実施

## ２　検証計画

・表現力アンケート（児童生徒・教員）…計３回（５月・９月・１２月）
・授業研究，協議会の実施（小中全教職員）…６～１２月
・単元末テスト，定期テスト…随時
・大勢の前で自己を表現する場面…随時

## ３　校内研修計画

| 実施予定月 | 研　究　（研　修）　内　容 | 担当者 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| 年10回以上 | ・服務規律研修 | 校長・教頭 | |
| 年２回 | ・学校評価①②結果の伝達 | 校長・教頭 | |
| 通年・随時 | ・児童理解研修（特別支援・生徒指導） | 特別支援教育Co.・生徒指導主事 | |
| | ・ICT 研修 | 情報教育担当 | |
| | ・小中研究主任連携 | 研究主任 | |
| 年３回 | ・表現力アンケート（実施→集計・分析） | 教頭・教務主任・研究主任 | |
| 年２回 | ・単元末テスト・定期テストの結果分析 | 各担任 | |
| ４月 | ・教育課程について | 教務主任 | |
| | ・授業での学習規律等共通理解 | 教務主任・研究主任・生徒指導主事 | |
| | ・研究主題・内容・計画について | 研究主任 | |
| ５月 | ・学習指導案の作成について | 研究主任 | |
| | ・授業づくりの理論研修 | 研究主任 | |
| | ・表現力アンケート（実施→集計・分析） | 研究主任 | |
| ６月 | ・授業研究 | 授業者 | 授業研究の内容 |
| ７月 | ・授業研究 | 授業者 | ・指導案検討 |
| ８月 | ・授業づくりの理論研修 | 外部講師 | ・模擬授業 |
| ９月 | ・授業研究 | 授業者 | ・授業 |
| | ・表現力アンケート（実施→集計・分析） | 研究主任 | ・協議 |
| 10 月 | ・授業研究 | 授業者 | ・まとめ文書作成 |
| 11 月 | ・授業研究 | 授業者 | |
| 12 月 | ・授業研究 | 授業者 | 紀要作成 |
| | ・表現力アンケート（実施→集計・分析） | 研究主任 | |
| １月 | ・授業研究のまとめ作成 | 研究主任 | |
| ２月 | ・研究の成果と課題の分析，まとめ | 教務主任・研究主任 | |
| | ・来年度に向けての計画立案 | 教務主任・研究主任 | |

## ４　研究公開の予定について

今年度は実施しない。